

# 院内がん登録

がんセンター 越 智 恵

2012年分の「院内がん登録」の集計と分析を行いましたので、その結果をご報告いたします。

院内がん登録は、病院で診断、治療された全ての患者様のがんについての情報を、診療科を問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査です。がん検診で見つかった患者様が多いのか、それともほかの病気がかかっているうちに発見された患者様が多いのかなど受診までの経過の違いや、がんの種類別の違い、あるいは手術の数が多いか少ないかなど病院のがん診療の特徴を把握するために定期的に行われています。

さらに、各医療機関が把握した情報を自治体単位でとりまとめる「地域がん登録」、国全体でとりまとめる「院内がん登録全国集計」も同時に行われており、毎年どのくらいの数のがんが新たに診断されているか(罹患数)、毎年どのくらいの人のがんで亡くなっているか(死亡数)、がんと診断された人がその後どのくらいの割合で生存しているか(生存率)といったがんの統計情報が集計され、国や地域のがん対策を立案、評価するために役立てられています。

**登録対象** 入院外来を問わず、下記の期間中、新たに受診・診断・治療の対象となった腫瘍

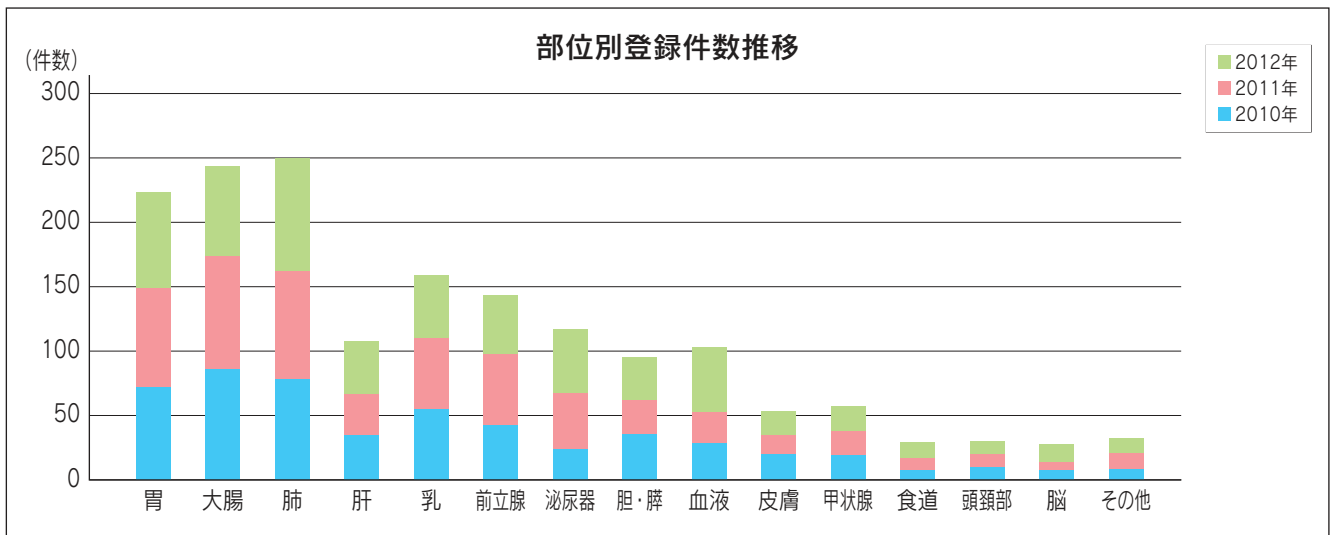
**期 間** 2012年(平成24年)1月～12月

**登録件数** 全登録数585件のうち、症例区分8その他を除く集計対象件数：575件

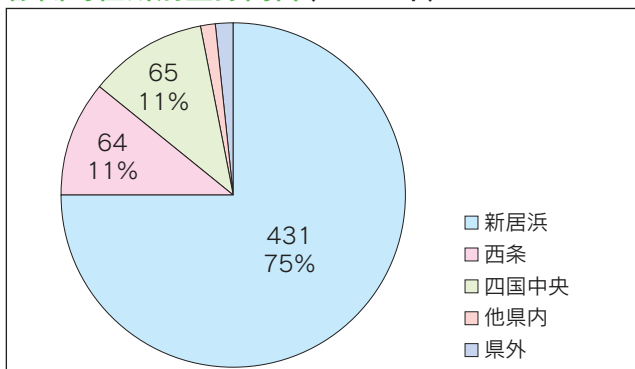
※以前の住友別子病院ニュースでは、「初発」例の集計値のみを掲載しておりましたが、今回より国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する全国集計において集計対象として定義している「症例区分8その他を除く」したデータでの集計値を報告、掲載しております。  
 ※がん登録件数は医療機関で診断、確認された症例数であり、がん発生数(罹患数)とは異なります。同一症例が他の医療機関でも重複登録される場合があることから、場合によって両者に大きな差が生じることがあります。  
 ※個人情報につきましては、法令および厚生労働省のガイドラインに基づき適正に取り扱い、保護・管理を行っています。

## 部位別登録件数推移

	胃	大腸	肺	肝	乳	前立腺	泌尿器	胆・膵	血液	皮膚	甲状腺	食道	頭頸部	脳	その他	合計
2010年	72	86	78	35	55	44	25	35	29	20	20	8	11	8	9	535
2011年	77	88	85	32	55	54	43	28	24	16	18	10	10	7	12	559
2012年	74	69	86	41	48	46	49	32	50	17	19	11	9	13	11	575

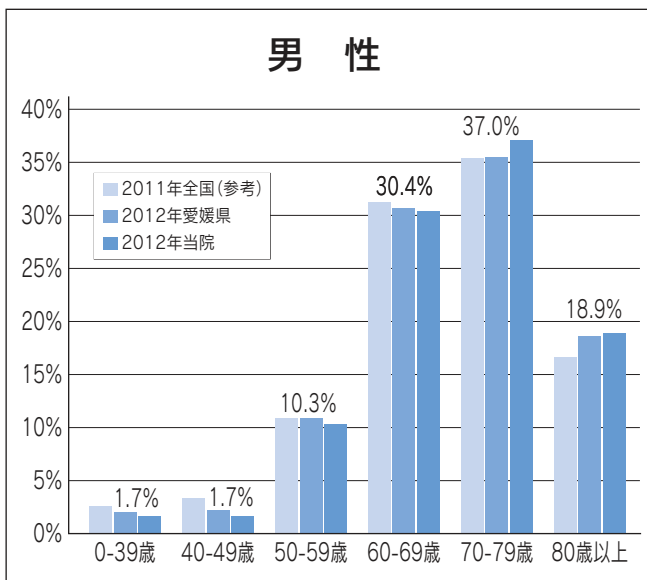
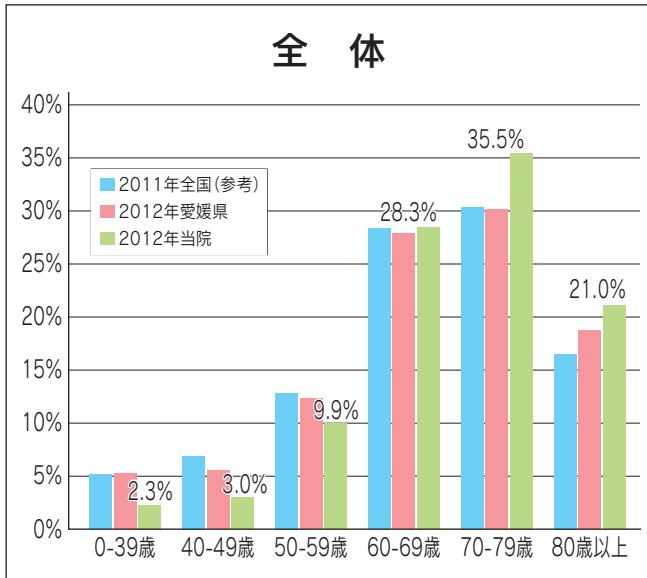


## 診断時住所別登録割合(2012年)



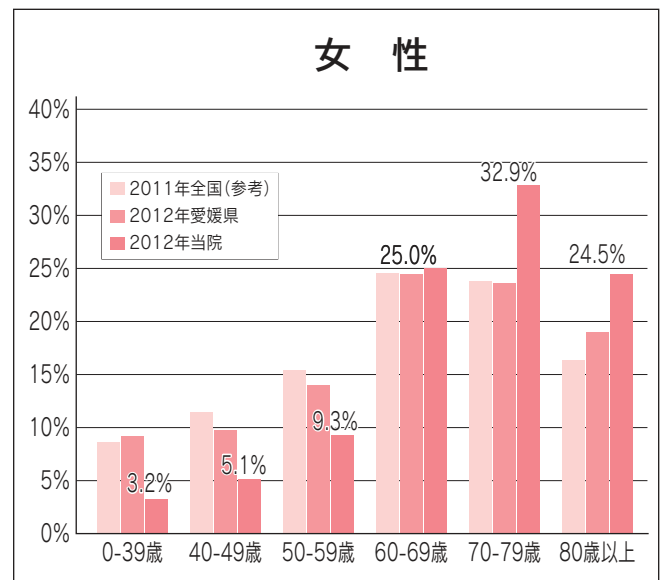
- ◆ 部位別では、我が国に多いとされている5大がん(胃・大腸・肺・肝・乳)と前立腺がんが上位を占めており、当医療圏に特異的な傾向は認められませんでした。
- ◆ 診断時住所別では、当院の所在地である新居浜市内の患者様が4分の3を占め、ついで四国中央市、西条市の患者様となっており、住友別子病院が地域密着型の病院としての機能を果たしていることがわかります。

## 年齢6階級別登録割合



◆当医療圏の人口構成は全国水準と比べて高齢者の割合が高い傾向にあります。性差別で見ると、男性では愛媛県や全国の集計と比べて高齢者の分布割合が若干高いものの、ほぼ同様の分布でした。

しかし、女性では若年者の占める割合が明らかに低く、高齢者に偏る傾向が認められました。これは、男性では、どの領域のがんでも一般に高齢者ほど有病者が高率であるのに対し、女性では乳がんや婦人科がんなど女性特有の疾患が比較的若い年齢でも罹患することが多いことが関与していると思われます。つまり、当医療圏の人口構成から若年女性のがん登録症例が県や全国の集計と比べて少ないと考えられる上に、当院では2012年になって休止されていた婦人科診療が再開されたばかりの時期であったために婦人科がんの登録数が限られていたこと、逆に、女性も男性と同様に加齢とともに増加するがん罹患する方が増えることから、このような違いがみられたものと考えられます。



「がん登録でみる愛媛県のがん診療」愛媛県がん診療連携拠点病院集計結果より抜粋



### 亀井治人副院長・がん診療部長

今回とりまとめられた院内がん登録のデータは、住友別子病院のがん診療機能を見直し、さらなる改善を図ることによって地域のみなさまにより質の高い診療を提供するための一助としたいと考えております。

当院で診断、治療を受けられるがん患者様の数は徐々にではありますが増加傾向にあります。さらに、当院を受診されている患者様のお住まいの場も新居浜市を中心とする近隣地市であり、現状で満足できるレベルとは考えておりませんが、患者様の日常生活圏と治療を受ける場が切り離されない医療環境を提供するという責務を、幾ばくかは果たすことができていると自負致しております。また、当医療圏では人口構成の高齢化によって今後さらにがん罹患する方の増加が懸念されます。しかも、年齢が高くなれば体調が十分でなかったり、余病をお持ちであったりなど様々な事情によってガイドライン通り、マニュアル通りの診療では、その方にとって最善の治療法をご提供できないということをしばしば経験致します。年齢に限ったことではありませんが、様々な事情をお持ちである一人一人の患者様に向き合い、今後の診療内容についてよく相談し、診療の目標を医療者と患者様の間で共有することができる、そのような医療環境が望まれます。

当院は、国から指定された新居浜・西条、宇摩医療圏における「地域がん診療連携拠点病院」であり、当該医療圏にある県指定の「がん診療連携推進病院」と連携して地域のみなさまに安心して診療を受けていただける環境を作ることが求められています。いまだ医師、看護師、薬剤師などの人材確保において厳しい医療状況ではありますが、当院としては、自施設の診療レベルの向上のみでなく、地域連携ネットワークの構築を図り、治療、療養の場の確保、つまり、地域全体でがん患者様を支える体制の構築に向けてリーダーシップを発揮できるよう努めていきたいと考えています。